

アラビア語の二層性の現状と教授方法

－ 二層性（ダイグロシア）をどうとらえるか －

長渡陽一

アラビア語は、文字媒体や公式発話で使う文章体（アラビア語でフスハー）と、会話で使われる会話体（アンミーヤ）が乖離した二層状態（ダイグロシア）にある。ところがアラビア語教育の多くは、文章体の1層のみを教育しており、4技能が十分に育てられていない。今回の発表では、文章体と会話体を含めた総合的アラビア語コミュニケーション能力を習得するには、両層をどのように教育・学習するのがよいのかという問題がある。

1. アラビア語のバラエティ

[地域方言] アラビア語の地域方言は、大きく4つ、ないし5つに分けられる。それぞれ音韻的な違いや基本単語などに語彙的な違いがある。

方言	どうですか？	とても元気です。	何飲みたいですか？	コーヒー飲みたいです。
モロッコ	a:f ʁba:rək?	mzja:n bəzza:f.	a:f bɪ:ti tʃrəb?	bɪ:t nəʃrəb qəhwa.
カイロ	izzajjak?	kowajjes ʔawi.	ʕa:jiz teʃrab ʔe:ʔ	ʕa:jiz aʃrab ʔahwa.
シリア	ki:fak?	mni:h kti:r.	ʃu: bəddak tʃrab?	bəddi ʃrab ʔahwe.
イラク	ʃlo:nek?	ze:n kullij.	ʃinu tri:d tiʃrab?	ari:d aʃrab gahwa
サウジ	tʃe:fak?	wa:id ze:n	e:ʃ tabʕa taʃrab?	abʕa aʃrab ɣhawa.

[文章体] 出版物や看板などあらゆる文字媒体と公式的な発話には文章体が使われている。アラビア語の文章体は、会話体として使われている地域がなく、ネイティブスピーカーがいないことが、他の近代国語と異なる。

	如何に？	善にて。	何を飲まんと欲すや？	珈琲を飲まんと欲す。
文章体	kaifa ha:luka?	biʁair.	ma:ða: turi:du ʔan taʃraba?	uri:du ʔan ʔaʃraba qahwatan.

会話体と文章体のそれぞれが使われる領域の違いについては、詳しくは長渡（2014）の表1（CEFRの「テキストの種類」）に示した。

2. アラビア語の教授方法

2.1. アラビア語教育・学習の目標

(1) 4技能 具体的な学習目的によって重点の置き方は異なってくるが、4技能をある程度すべて目指すのが一般的である。また会話体と文章体との違いが大きい、両層は語

彙の約70%を共有している（長渡2015）ので、相乗効果も十分に期待できる。

(2) **使い分け能力** 場面や媒体、相手などの条件にしたがって、会話体と文章体を使い分ける能力を身につけることが必要である。入門レベルから上級レベルまで、どのような使い分けが目指されるべきかは長渡（2014）の表2「使い分け能力評価基準」で示した。

(3) **アラブ圏全てに対応すべきか** 学習初期の段階で地域を選択し、その会話体と文章体を、現地人の運用レベルを目指すのがよいと考える。文章体だけでアラブ全域に対応しようとするのは、ラテン語だけを学んでスペイン、イタリア、フランスに対応することにたとえることができる。

2.2. 文章体を先に学ぶことの問題点

会話体の学習には地域を限定しなければならないことから、共通の、また権威ある文章体を習得した後に会話体を学ぶのが効率的とされることがある。しかしこれは、地域を限定する時期を先送りしているにすぎない。またこの考え方は、文章体こそが“正しく”、“文法”的であり、会話体は“文法”がなく、“崩した”ことばだから、文章体さえしっかり身につければ会話体はできる、という見方が背景にある。現実には会話体にも文法があり、学ばなければ片言のままである。

また買い物、レストランでの会話をはじめ、文章体による会話練習は、実際には存在しないバーチャルな会話文の練習にすぎない。

さらに、アラブ圏では、文章体の格変化や動詞の法語尾こそが文法であり、“崩れた”会話体と一線を画す要素であるため、これを過度に訓練させる傾向がある。しかしこれらは会話では使われず、文字上も現れないので読解にも役に立たず、実用的には無意味である。

2.3. 会話体を先に学ぶことの問題点

会話体を学ばばすぐに現地で実践として使え、ドラマ、映画、歌謡曲などを理解することができる。また、アラビア語のネイティブ話者は、会話体を先に習得し、後に教育を通して文章体を学ぶので、会話体で考え、そこから“言いかえる”ことで文章体を生成するので、会話体を先に学習することは自然なベクトルと言える。

しかし、会話体による読み書きは学習用に作られたバーチャルなものである。

2.4. 会話体と文章体を同時に始める

発表者自身は、入門の段階から、会話体と文章体を同時に学習し始めることが最も効率的、効果的であると考え。会話は会話体で行い、読み物は文章体で読むのが実際的で自然である。4技能には相乗効果がある。また発表者の教授経験から、一方を後に回すことは、それを開始すべき時期が定まらず、結局、始められなくなる。

同時に始める際の懸念事項として第一に、2つのかなり類似した言語を学ぶので混乱を

予想することが多いが、同時に開始した実践がないので、混乱が起きたとする実践報告も実証的な研究もない。またたとえ混乱が起きるとしても、現実には両者が1つの言語社会で同時に使われているのであるから、その現実を反映していると言える。

また発表者が2015年度の東京外国語大学の教養外国語1年目と2年目、国際基督教大学の世界の言語1年目の受講者に実施したアンケート結果では、混乱したという感想もあるが、両方に触れたことに対して肯定的な感想が多い。

- ・アラビア語1年目の23名中、肯定的13（会話体に触れる機会があつてよかった、ずいぶん違うと驚いた他）、否定的8名（手一杯、ごちゃごちゃになるなど）、無回答2名。
- ・アラビア語2年目の14名中、肯定的13名（現地で使えるなど）、無回答1名。
- ・国際基督教大学1年目1学期（3か月）25中、「同時」に肯定的7名、「どちらかが先がよい」12（文章体が先6名、会話体が先5名、どちらでもよい1名）、無回答6名。

2.5. 同時学習の課題

実際に両層を同時に教授し、その実践報告を蓄積することが必要であろう。教授・学習方法の研究はYounes（2006）などいくつかあるが、まだ進んでいない。これと並行して、両層を同時に教育・学習するための教材も開発しなくてはならない。

また辞書についても、現在は会話体と文章体の辞書が別々に作られているが、両層の語彙使用実態および使い分けを調査し、使い分けを記述した総合辞書をつくる必要がある。

参考文献

- 長渡陽一.2014.「言語内バリエーションの使い分け能力評価基準 —二層言語（ダイグロシア）アラビア語からの提起—」『外国語教育研究 17』112-126.
- 長渡陽一.2015.「ダイグロシア（二層言語）アラビア語の日常使用語彙中の文語体語彙について」 外国語教育学会発表資料.
- Younes, Munther. 2006. "Integrating the colloquial with Fuṣḥā in the Arabic-as-a-Foreign language classroom", *Handbook for Arabic language teaching professionals in the 21st century*. Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.